

第Ⅲ期ホームレスの自立支援等に関する推進計画策定委員会 第5回会議概要

日時： 平成27年12月18日（金）午後2時から午後4時

会場： 新宿区役所本庁舎 6階第二委員会室

1 開 会

- (1) 定足数を確認し、会議の成立を報告した。（出席委員7名）
- (2) 区長挨拶
- (3) 福祉部長の異動を紹介した。

2 議 事

- (1) 「新宿区第Ⅲ期ホームレスの自立支援等に関する推進計画」（素案）のパブリック・コメントの実施結果について

生活福祉課長がパブリック・コメントの実施結果及び寄せられた意見と意見に対する区の考え方を説明した。

- ① 実施期間：平成27年10月15日（木）から平成27年11月16日（月）まで
- ② 意見提出人数：3名・1団体
- ③ 意見数と区への対応：寄せられた意見数 66件（うち、意見を計画に反映 23件）
- ④ 寄せられた意見内容と区への考え方：資料3参照

〔委員長から〕

寄せられた意見に対して非常に一つ一つ丁寧に応答しており、どのような計画内容に反映するのかについても、区分して整理されている。

- (2) 「新宿区第Ⅲ期ホームレスの自立支援等に関する推進計画」（案）について

生活福祉課長が素案からの変更点を説明した。また、委員からは以下の意見があった。検討の結果、委員長が本計画（案）を成案として区に報告した。

【主な変更点について】

生活福祉課長がパブリック・コメントの意見反映等、素案からの変更点について説明した。

- ① パブリック・コメントの意見反映による変更

意見の趣旨を整理して、素案を修正・補記し、新たな資料や用語説明を追加した。

- ② 平成27年8月の東京都路上生活者概数調査結果によるデータ更新

新宿区内のホームレス概数を素案では平成27年1月調査結果（70人）で記載したが、平成27年8月調査結果（99人）にデータ更新した。

〔委員長から〕

計画書案の本文及び概要版の修正について、パブリック・コメントの意見反映のほかに、平成27年8月の東京都路上生活者概数調査によるデータ更新や、第Ⅵ章の資料編で新たに資料説明や用語説明の追記等を行い、よりわかりやすい内容としている。

【「ご意見シート」について】

生活福祉課長が「ご意見シート」で寄せられた2件の委員意見を紹介した。

- ① 最近、ホームレスに対する傷害事件が見られるが、対応マニュアル等はないか。

（生活福祉課長）

常日頃から事業展開の流れや相談業務や巡回相談の心づもりを準備している。特化したマニュアルはないが、職員はどのように対応すればよいかという共通認識を持っている。

- ② 「見えにくいホームレス」の「見えにくい」とは、「ネットカフェやサウナ等」を指すのか。もっとわかりやすく定義してほしい。

(生活福祉課長)

用語集に補記したが、皆様に改めて整理・確認いただき、修正案としたい。

(委員意見)

- ・ 細かく言えば「見えにくいホームレス」にはネットカフェやサウナ等の住居ではないところに起居している人だけではなくて、友達のアパート等を転々とする人たちも含まれる。
- ・ 住居ではないところに起居している人や、「見えにくい」という状況は、はっきり定義ができない。はっきり定義しないほうがよい。定義できるとしたら「見える」状態にある。
- ・ ネットカフェ等は、隠れている場所の例としては挙げられるが、実際はいろいろなところに隠れている。見えないというのは、ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法で定義される典型的なホームレスという形では把握しにくいというようなイメージでよい。
- ・ 定義づけしづらいので、ふんわりした定義のほうがよいと思う。
- ・ 夜間調査では「見える」ホームレスも終電の前と終電の後も人数が変わる。どこかから来て、その段階で「見える」ようになるが、寝ているだけなので詳しくは聴き取りできない。実際、長期にわたって居所がないのか、あるのか、実態はよくわからない。
- ・ 今までの議論でよい。この人たちの今後が気になる。明確にホームレスとは言えないが、不安定な生活をしている人たちへの対策は、今後も引き続き必要と考える。定義づけの前提をせずに、課題として共有しておくものとする。
- ・ 屋根のあるところにいるが安定しない、そこと路上を行き来するなど、はっきりホームレスとは見えない人の総称としてのニュアンスが出ればよい。ホームレスになるとずっとホームレスでいるというような、典型的なホームレス像を一般の人はイメージしている。新宿には、路上と行き来する場が多くあることを区民の方にご理解いただきたい。

【委員長から】

新宿の「見えにくい」ホームレスのイメージは、ネットカフェやサウナ、友人宅に点々と一時的に寄宿しているような、定義づけを明確にできにくい層といえると思う。補記の表現は、「知人」や「知人宅等」が妥当と考える。

《修正案》

用語集の定義に、路上等に起居する「見える」ホームレスに対して、ネットカフェやサウナ等の住居ではない所や知人等の住居に起居している人などを「見えにくい」ホームレスという、と補記することとした。

【その他の委員意見について】

- ① ホームレスのタイプと改定ポイントの関係がわかりにくい。

(生活福祉課長)

パブリック・コメントの意見反映として、第IV章の「ホームレスの三つのタイプ」に対応する改定ポイントを補記し、整理した。

(委員意見)

- ・ 改定ポイントは、それぞれの具体的な支援策がイメージされ、ホームレスのタイプには、それぞれの抱える問題や年齢の違いが反映されており、支援のニーズが入っている。タイプ2とタイプ3は、タイプは異なるが改定ポイントが同じで、ポイントとタイプがど

ういう関係にあるかがわかりにくい。

- ・第IV章「ホームレスのタイプ・段階的支援イメージ」を参照するとわかりやすい。

〔委員長から〕

第VI章「第III期推進計画の事業主体、対象タイプ一覧」がわかりやすい。第IV章「ホームレスのタイプ・段階的支援イメージ」とともに参照するよう注記するとよい。

《修正案》

第IV章の「ホームレスの三つのタイプと3つの改定ポイント」の欄外に、事業の全体像としては、第IV章の「ホームレスのタイプ・段階的支援イメージ」及び第VI章の「第III期推進計画の事業と事業主体、対象タイプ一覧」を参照するよう注記する。

- ② 最近、ホームレスへの襲撃事件があったことを受けて、人権啓発に強目の表現がされている。子どもたちには計画の紹介だけでなく、授業的な取組ができればよいと思う。

（生活福祉課長）

主管課としては、授業の参考にしていただけたらと思っている。人権啓発の一つの素材としてここまでの記載としたい。

〔委員長から〕

今の段階では、授業に取り上げると記載するのは難しい。原案どおりとしたい。

- ③ 都区共同の緊急一時宿泊事業は、「本来の目的の住宅資金給付事業等の利用が見込まれる方への宿泊援護が減少し、整理・統合」したとあるが、廃止ではないのか。

副委員長に経緯を確認したところ、目的以外の理由、例えば一時的宿泊で事業を利用する人の割合が高くなり、本来の役割からかなりずれてきたため廃止となった、と説明があった。

〔委員長から〕

委員長と事務局で文言を整理する。

【計画案の報告】

委員長が「若干の修正等があるが、本案を成案とする。この計画書を最終報告書として区長へ報告したい。修正は委員長と事務局に一任とする。」と総括し、区に報告した。

(3) その他

① 今後のスケジュールについて

生活福祉課長が「今後、区で事務的な手続きを行い、1月中旬頃に「第III期ホームレスの自立支援等に関する推進計画」として正式決定する見込みである。公表については、2月中旬に議会に報告後、広報しんじゅく2月15日号に掲載予定で準備を進めたい。計画書は閲覧及び有償頒布とし、概要版はお配りする予定である。」と説明した。

② 各委員の感想

〔委員長から〕

委員の皆様には、それぞれの視点から熱心にご発言いただいた。これだけ活発で前向きな議論をする委員会ほかに記憶がなく、幸せな時間をこの委員会で送ることができた。これまでも新宿区はホームレスの先進的な取組を継続し、成果を上げているので、区民の方々、そこで取り組んでいるの方々、行政がしっかりこの計画に取り組んでいくと

思う。路上生活で来た人たちに対してどう手を差し伸べるのか、あるいはその人たちの生活をどのように支えるのかという、ある意味では人間の尊厳にかかわる最も大切なことに、区として誠実に対応しているのが非常に嬉しい。その計画をホームレスに最も熱心にかかわっている方々と策定することができたので、よいものができたと思う。

今後、ホームレス支援は、ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法から生活困窮者自立支援法に引き継がれるが、法律の範囲ではなく、ホームレスの人の生活の実態と意識に寄り添い、ホームレスを積極的に区民の一人として、都民の一人として、しっかりと支えていく計画になっているので、今後、この計画を推進して行ってほしい。

〔副委員長から〕

今後、施設の現場に戻るが、ここでいろいろ見聞したことを踏まえて職員に向けてメッセージを送り、施設運営を進めていきたい。

〔各委員から〕

- ・ パブリック・コメントについても丁寧に吟味して、区のレベルでこれだけの計画をつくるというのは、ほかの自治体では取り組まれていないと思う。また、情報公開が適切に行われているという印象を受けた。
- ・ 新宿区がこの多様なまちの発展をどう推進していくのか、その中でこのホームレス問題にどのように対応していくのか、が一番重要なことと考える。この課題を明確にしていけるような、また違った生活困窮者の自立支援のあり方を期待している。
- ・ まず、これまでの蓄積がすごいと思う。自治体として正面から社会の矛盾を受けとめ、低所得とか生活に困っている方を応援していこうという明確なスタンスが感じられる。また、いろいろな方の声を集めて計画をつくっていくうえで、コメントに区が丁寧に対応しており、議論を一緒にできてよかった。今後は、この内容をよりよくしていくために、私たちも日々の活動の中でできることをしていきたい。
- ・ 最後に、今後の課題として、貧困の連鎖というような問題がどのような形でこれから5年、10年の間に若い人を含めて出てくるのか。新宿区はそのような大きな舞台の一つになると考えるが、これまでつくってきた計画とか、ネットワークが生きて、決して負担になるだけではないと考える。何か新しい活気というか、イノベーションと言ったら大きいのが、この計画策定がそのような有意義なものをつくっていく契機になればと思う。
- ・ 民生委員と学校の先生方や教育委員会、児童部で話し合いの場があるので、そのような場を活用して啓発していきたい。地域でホームレスに対してこういうことをしたほうが良いというようなマニュアルがあればと思う。
- ・ 計画書の年表を見ると、新宿区がホームレス問題への取組を開始してから24年の歳月が経過しており、いろいろなことが思い出されて感慨深い。この間に都区共同事業だけでなく、新宿区は独自の取組をいろいろ実施してきた。その中で蓄積した資源や援助のノウハウを大事にして、生活困窮者自立支援法とうまくつなげていくとよい。

③ 閉会 （午後4時）

福祉部長が「本日、皆様のご尽力で計画案を区にご報告いただき、感謝申し上げます。報告を重く受け止め、この計画に基づいて区はホームレスの自立支援に取り組んでいくので、委員の皆様方に今後とも支援をお願いしたい。」と挨拶し、閉会した。